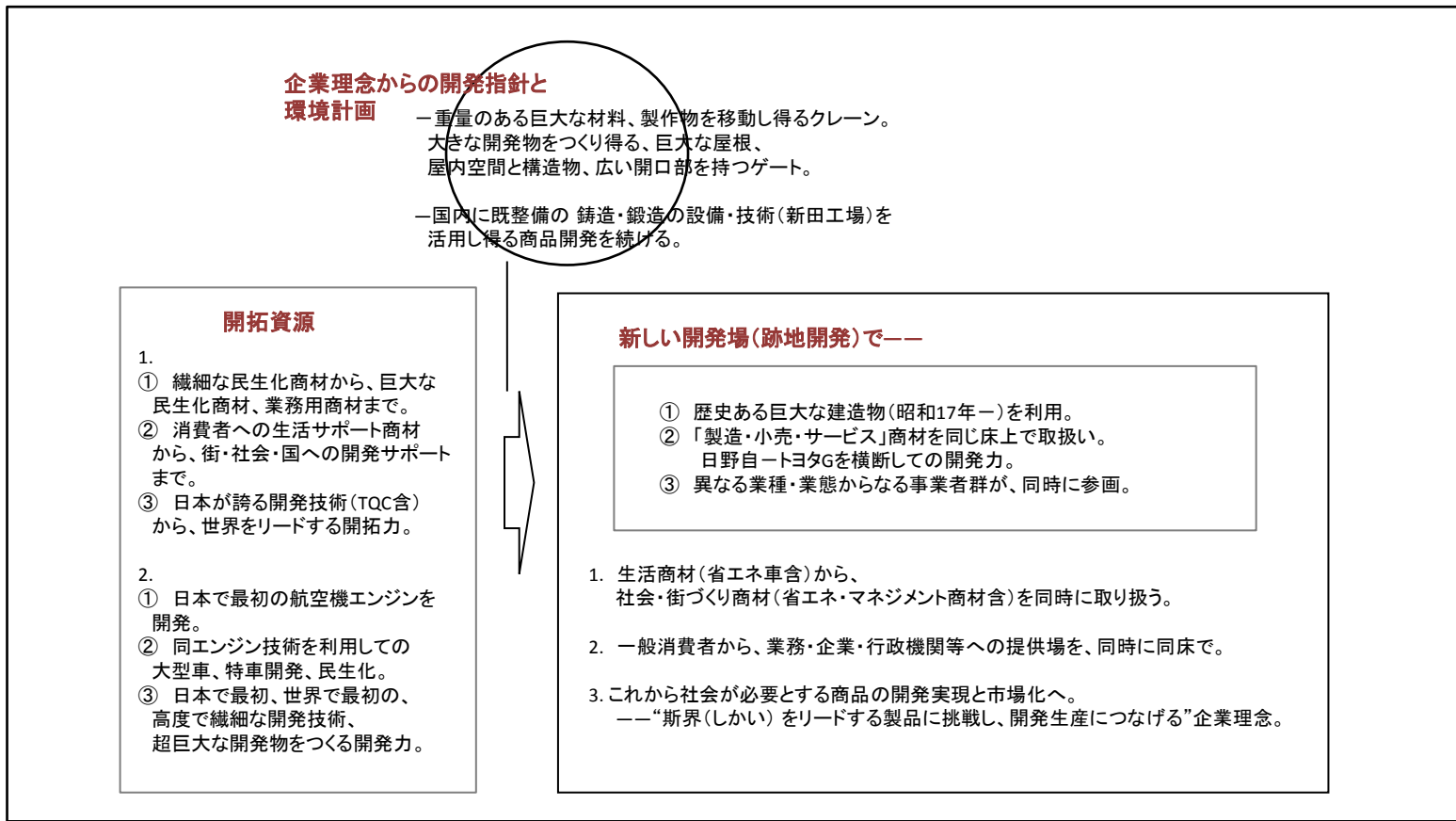


試案

[実践的な国家プロジェクトとなるシナリオ(試案) — 実戦力ある民間戦略と、国政・行政(東京都)戦略の複合をテーマ]
東北での「自動車新産業特区」構想 ⇒ 『日本の産業構造転換に伴う製造業用地(東京都内)へ移行のアフターケア検討』
(対象地: トヨタG/日野自動車本社工場跡地)

作製: 鈴木浩二 総合プロデューサー
顧問: 石原信雄 元官房副長官
Sept. 2014 取扱注意

【アフターケアの方向性】
“日野自動車らしい”、象徴となる開発内容



産業構造の転換に伴う製造業→サービス化への開発検討

事業内容:
跡地開発を機会とする日野自動車の歴史ある技術開発力と開拓力 現資源を横断。

(試案) 日野自内部で開発準備室となる 仮称「流通エンジニアリング事業部」を組織化。
同事業部による開発テーマを設定。

開発へのテーマ設定と事業施設計画へ

民生化商材の開発・販売を主テーマに、
日野自-トヨタGをも横断しての
新しい商品開発・販売を目指す。

またグループ外の
メーカー・ソフト・システム開発企業からの
参画も得る。

開発戦略図書(プラットフォーム A2・B2 5枚)

1. 民生化商材を開発・販売

日野自-トヨタGを横断して
「環境-車-エネルギー-街」への
新しい商品開発・販売を進める。

2. 省エネ車開発力を総合開発力へ

日野自跡地への街づくり開発を行う。
日野自の企業理念を軸にした総合開発。

3. 核となる自主事業

日野自(前身・瓦斯電)の創設100年、
これからの100年に向けての自主事業を、
当事業部を核に行う。

跡地計画の核として
「企業ミュージアム(日野オートプラザ)」
の移設に併設させての事業施設。

4. オリンピック事業へのビジネス導入

跡地開発内での
「環境-車-エネルギー-街」を切り口の
新しい開発物を、2020年東京オリンピックへ
ビジネス導入させる。

全体への開発図書
(日野自-トヨタG横断のプラットフォーム
A2版4枚、B2版1枚)

事業施設計画

「環境-車-エネルギー-街」をテーマに
日野自-トヨタGの技術資源と開発力より
事業施設づくりを行う。

- 商業核施設、テーマ型SC施設
- スマート住宅・集合住宅
- オフィス、R&D事業
- 省エネ・マネジメント事業
- 自主事業(企業ミュージアム+エデュテインメント施設)
- 日野自-トヨタG「共同店舗」
- ホテル・コンドミニアム施設
- コンベンション・企業研修施設

自主事業を含む計画力点 (開発テーマ)

自主事業

5つの開発
テーマを設定

環境
エネルギー
エネルギーと
省エネ車
エネルギーと
エネルギーと
街・社会
アクティビティ
ウェルネス

1. テーマ型「エデュテインメント・アミューズメント施設」と
「企業ミュージアム」

① 「環境と車のエデュテインメント型集客施設
/アミューズメント施設」

② 現・「日野自オートプラザ(企業ミュージアム)」
移設・開設
航空機開発、車を含む歴史物展示を移設。
展示方法を高度化。

2. 「開設施設販売へのビジネス・ショールーム」

※参考例: トヨタ、経産省「エコフルタウン(豊田市)」
事業費21億円、敷地面積1.55ha (H26年 運営開始)

[アフターケアの方向性]

“日野自動車らしい”、象徴となる開発内容

「企業理念による開発指針、環境計画」より「開発姿勢」

環境資源としての
工場・設備

- 重量を伴う大型・特車商材を製造する工場躯体と設備。
- 大規模容積を持つ建築機能、建築形態。→大規模なショウビジネスと販売が可能。

産業構造の転換に伴う
製造業→サービス化への
開発検討

試案内容:

跡地開発を機会とする
日野自動車の
歴史ある技術開発力と
開拓力 現資源を利用。

開拓資源

1. 「繊細な民生化商材」から、「大型の民生化商材、業務用商材」まで。
2. 消費者への生活サポート商材から、街・社会・国への開発サポートまで。
3. 日本が誇る開発技術(TQC含)から、世界をリードする開拓力。
4. 日野自・日本オリジナルの高付加価値「多品種少量製造」。
5. 日本で最初の航空機エンジンを開発。→同技術力を利用しての大型車、特車開発、民生化。
6. 国内に既整備の 鋳造・鍛造の設備・技術(新田工場)を活用し得る商品開発を続ける。

新しい開発場(跡地開発)で——

環境資源と開発形態

- ① 歴史ある工場躯体(昭和17年-)を利用。
- ② 「製造・小売・サービス」の同床での事業者参画により、楽しみ、参画しながら、欲しい商材を開発・販売。→「多品種少量製造」を実現。

開発姿勢

1. 対象商材: 「生活商材(省エネ車含)」から、「社会・街づくり商材(省エネ・マネジメント商材含)」を同時に取り扱う。
2. ターゲット: 「一般消費者」から、「業務・企業・行政機関等」への提供場を、同時に同床で。
3. 目標: これから社会が必要とする「商品の開発実現と市場化の場」として。——“斯界(しかい)をリードする製品に挑戦し、開發生産につなげる” 企業理念。

[アフターケアの方向性]

“日野自動車らしい”、象徴となる開発内容

「企業理念による開発指針、環境計画」より「開発テーマ設定と施設試案」

開発へのテーマ設定と事業施設計画へ

開発戦略図書(プラットフォーム A2・B2 5枚)

1. 民生化商材を開発・販売

日野自-トヨタGを横断して「環境-車-エネルギー-街」への新しい商品開発・販売を進める。

2. 省エネ車開発力を総合開発力へ

日野自跡地への街づくり開発を行う。
日野自の企業理念を軸にした総合開発。

3. 核となる自主事業

日野自(前身・瓦斯電)の創設100年、これからの100年に向けての自主事業を、当事業部を核に行う。

跡地計画の核として「企業ミュージアム(日野オートプラザ)」の移設に併設させての事業施設。

4. オリンピック事業へのビジネス導入

跡地開発内での、「環境-車-エネルギー-街」を切り口の新しい開発物を、2020年東京オリンピックへビジネス導入させる。

全体への開発図書

(日野自-トヨタG横断のプラットフォーム A2版4枚、B2版1枚)

事業施設計画

「環境-車-エネルギー-街」をテーマに日野自-トヨタGの技術資源と開発力より事業施設づくりを行う。

- 商業核施設、テーマ型SC施設
- スマート住宅・集合住宅
- オフィス、R&D事業
- 省エネ・マネジメント事業
- 自主事業(企業ミュージアム+エデュテインメント施設)
- 日野自-トヨタG「共同店舗」
- ホテル・コンドミニアム施設
- コンベンション・企業研修施設

自主事業を含む計画カ点(開発テーマ)

- 5つの開発テーマを設定
- 環境
 - エネルギー1
エネルギーと省エネ車
 - エネルギー2
エネルギーと街・社会
 - アクティビティ
 - ウェルネス

自主事業

1. 日野自-トヨタG横断の販売店舗「共同店舗」づくり
2. テーマ型「エデュテインメント・アミューズメント施設」と「企業ミュージアム」
 - ① 「環境と車のエデュテインメント型集客施設/アミューズメント施設」
 - ② 現・「日野自オートプラザ(企業ミュージアム)」移設・開設
航空機開発、車を含む歴史物展示を移設。展示方法を高度化。
3. 「開設施設販売へのビジネス・ショールーム」

※参考例: トヨタ、経産省「エコフルタウン(豊田市)」
事業費21億円、敷地面積1.55ha (H26年 運営開始)